第2回 まちづくり 委員会開催

当所まちづくり委員会では、中心市街地活性化や都市景観の整備に関する産業界の意見集約を目的として、これまでにも専門家を招いての講演会や岐阜市への提言活動等を行ってまいりました。そのなかで、去る4月2日、中心市街地活性化に向けたビジョンについて、岐阜柳ケ瀬商店街振興組合連合会の水野琢朗（みずのたくろう）理事長よりお話しを伺い、当所の取り組みについてご紹介した上で、前回に引き続き㈱道家経営・法務事務所　道家 睦明様をファシリテーターに、委員の皆様が肌で感じる岐阜市の現状を踏まえて活発な意見交換を行っていただきました。

今月号では、意見交換会の内容について、ダイジェストでご紹介いたします。

中心市街地活性化に向けたビジョン

●ファシリテーター　株式会社道家経営・法務事務所　**道家 睦明**

井手口委員長　中心市街地の直面している課題は多岐にわたっていますが、地域経済の貴重な地域の基盤で住民の暮らしを支える重要な存在です。その未来について私たち経済団体が地域の声を反映しながら議論するということは、大変意味のあることですので、持続可能で魅力的な中心市街地の実現に向け、まずは活発な意見を出し合いましょう。

水野理事長　昨年は、柳ケ瀬商店街に、年間で20店舗以上の新規出店がありました。これは、過去10年間で、最も新規出店が多かった一年でした。さらに、柳ケ瀬グラッスルをはじめ、多くのマンションが建ち始めています。その結果、若い世代が非常に増えてきており、特に、14歳以下の若者人口が大幅増となっています。それに伴い、2023年に開設された岐阜市の柳ケ瀬子育て支援施設「ツナグテ」は、月に1万人以上の方が来館されているような状況になっています。

そのような環境へ変化している中で、2039年には、「柳ケ瀬生誕150周年」を迎えます。その段階で、柳ケ瀬が日本一のまちになるよう、商店街では、「YANAGASE VISION 150」として、取組みを始めています。

その「YANAGASE VISION 150」では、3つの改革として、①「魅力的なエリアブランディング」、②「積極的なテナントリーシング」、③「個店経営力の向上」を考えています。

①「魅力的なエリアブランディング」では、柳ケ瀬を、4つのニーズと3つのエリアに分類し、「経済・学生ニーズ」「サブカル・グローバルニーズ」「子育て・高齢者ニーズ」「観光・手土産品ニーズ」に合わせ、「ライフリッチエリア」「ダイバーシティエリア」「ファミリーエリア」として、ニーズとエリアを適合させていきます。

②「積極的なテナントリーシング」では、中堅クラスの店舗として、自ら集客できる店舗を誘致し、来客者数の増加につながることで、さらに個人事業主にも好影響を与えることで、最終的に、大手企業も出店につながるという循環を生み出していきます。

③「個店経営力の向上」では、コンセプトマップの作成やふるさと納税、クラウドファンディングの支援とともに、創業塾を開催することで商店街出店のメリットを感じてもらえるような環境をつくっていきます。

これらを実現に近づけるため、商工会議所にも一緒になって考えていただきたいと考えています。

道家ファシリテーター　水野理事長からご紹介頂いた「YANAGASE VISION 150」の内容を確認して、これまでの柳ケ瀬地域への捉え方に変化が生じたと感じましたので、これまでの捉え方と比較して考えてみました。

全体的に「人が中心」となる捉え方へと変わったとして、「買物→生活」「ハード／コンテンツ先行→生活視点優先」「集客期待→居住住民主体」「点→回遊」「売り・買い→学び・育ち」「売上高→シビックプライド」といった変化があるのではないかと、捉えてみました。本格的な人口減少時代に入ってきた中で、考え方も切り替えていく必要があると考えられているのではないでしょうか。

鬼頭相談所長　岐阜商工会議所の中小企業相談所では、昨年より中心市街地の各店舗を改めて訪問してきました。その中で、ヒアリングを通じて事業者が求めている支援としては、①各種補助金の申請、②商工会議所の事業や制度の活用、③ホームページやSNSの活用、④人材不足に対する支援、などが挙がってきました。

また、水野理事長をはじめ、柳ケ瀬商店街のみなさんにも直接ヒアリングをし、各店舗の後継者の問題があるということで、事業承継に関する支援策が必要とされていることから、今年度は事業承継に関するセミナーを行います。それに加えて、①創業者の中心市街地への出店支援、②空き店舗の補助金事業の活用推進など、引き続き支援を行ってまいります。

A委員　当社では、直営の飲食店と商品販売を兼ねた店舗を計画はしているのですが、柳ケ瀬エリアについても選択肢がありましたが、残念ながら、当社の事業との連携を踏まえて、名鉄岐阜駅前への出店と決定しました。今後の展開として、出店などの予定が出てきましたら、柳ケ瀬も選択肢として検討したいと考えていきたいと思います。

B委員　私は学生時代に過ごした町としての柳ケ瀬には、非常に愛着があります。「YANAGASE VISION 150」の中に提案されている大学の誘致などが実現することになったら、若い人たちがその街に愛着を持つことが増えるので、中長期的に大変意義あることと思います。

C委員　やはり、来街者は柳ケ瀬までのアクセスを気にすると思います。以前から言われていますが、金華橋通りなどに駐車スペースを確保するなどといった案など、とにかくクルマ問題についても解決しないと発展しにくいのではないかなと思っています。

D委員　私は、柳ケ瀬の近くに住んでいますが、柳ケ瀬エリアを商店やテナントで埋めなくてはいけないという考えが、先に来ている感じがします。行きたくなる店を誘致してもすぐ撤退・閉店するみたいな構図は見たくありません。その点において、柳ケ瀬周辺の住民が増えていることが先にあって、魅力的な地域になって、そこに、行きたくなる店が自然と集まる、という流れの方が自然であり、持続的なまちづくりにつながるのではないでしょうか。また、街中にもう少し緑があってもいいのかなとも思います。金公園もありますが、柳ケ瀬の街中に緑の木を植えて憩いの空間にするなど、都市景観の面から美しい中心市街地にしてもよいと思います。

村瀬会頭　空きテナントを埋めることについては、これまでも商工会議所として空き店舗対策や出店マッチングなどを個別に支援してきていますが、岐阜市や商店街組合と深い連携により、これまでの活動をより積極化していくことも重要だと考えます。県内の商工会議所や商工会の会員の中には、例えば、高山や郡上で店舗をされている方から、柳ケ瀬に開店したいという方がいらっしゃるかもしれません。そういう方に、一度出店に関する情報提供とトライアルの機会を提供するといった考え方も必要かも知れません。

もう一つ、柳ケ瀬を、金華山や長良川と同じく「観光地」として捉え直すことも考えられるのではないでしょうか。岐阜市民は、柳ケ瀬は「観光地」だとは思っていないと思いますが、観光客の視点からすると、岐阜を代表する観光地として「柳ケ瀬」を考える方もいらっしゃいます。その点で、今の時代の「観光地」としての要素や側面も検討していくこともできると思います。2026年度から、岐阜市でも宿泊税が導入されるため、各宿泊施設から、岐阜城も行けるし、柳ケ瀬へも、玉宮へもという昼だけでなく、夜のお酒を楽しむエリアまで含めてのルートをきちっと作っていくことも必要です。その際には、回遊の利便性を高めるために、シニアの方にもバスなどに乗って行けるというようなしくみもあるとよいかもしれません。

井手口委員長　「YANAGASE VISION 150」には、大学誘致の提案も出てきましたが、中心市街地に学生が集えば、玉宮周辺だけでなく、柳ケ瀬周辺でも賑わう場所が増えることが期待できます。当然、柳ケ瀬で買い物をしたり、遊んでいただいたりということも増えていくと考えられます。大学誘致の提案だけにとどまらず、商工会議所としても、岐阜市と柳ケ瀬商店街との三位一体での会議体を作って協議を進めることも考えられます。その際には、まちづくり委員会のみなさんはもちろん、広くご意見をいただければと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

（文責　岐阜商工会議所）

第2回まちづくり委員会を終えて

●ファシリテーター
株式会社道家経営・法務事務所
道家 睦明

柳ケ瀬は、岐阜市を代表する中心市街地として、様々な取組みが長年続けられてきました。その蓄積を大切にしながら、柳ケ瀬生誕150周年というタイミングに向け、少子高齢化という全国的な流れの中とは逆の流れが柳ケ瀬周辺には小さな動きとして始まり、それが新しいうねりになろうとしています。環境の変化に合わせて、いつも変わり続ける柳ケ瀬の姿は、変化対応型のまちづくりといった新しい考え方なのかもしれません。